演題番号20	集団リハビリの効果 ～他患者との交流によるA氏の変化～
発　表　者	庄原市立西城市民病院　看護師　坂本　全啓
共同発表者	猫田　尚美，根本　みお

研究期間における当院の入院患者の平均年齢は86歳であり，看護の対象は高齢者が主である。地域包括ケア病床開設以後，リハビリスタッフが主体となり平日は集団リハビリ，休日は個別メニューを行っていた。しかし，職員の病欠により集団リハが実施出来ない期間があった。その際，患者から集団リハビリを再開してほしいと要望があり，看護が集団リハビリを実施する機会が増えた。その中で，90代の女性患者が，集団リハビリで他患者との交流を持つことで，ADLの拡大や活動に対する意欲の向上といった，患者の身体面・社会面・心理面に変化がみられた事例があり，A氏における集団リハビリの効果について学びを得た。

MEMO